

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

8号

2007年4月15日



「ほっとけない」から まちづくりは始まる

「今の地域や社会のありようを…」

「壊れていく自然環境を…」

「困っている人たちを…」

今の地域や社会に足りないことに気づき、

「ほっとけない」思いを大切に、

信じる「価値」の実現に向けて、自らすすんで行動を始める…。

それが、まちづくりの出発点。

無関心ではなく、

情熱をもって積極的に行動する

「ほっとけない」人たちはとても魅力的。

「ほっとけない」思いを大切に、行動する市民が増えれば、

まちづくりはすすむ。

そして、「ほっとけない」市民が

「つながる」(組織化・ネットワーク化する)ことで、

まちづくりはもっとすすむ。

目次

2006年度 公益信託 高知市まちづくりファンド

中間発表会

中間発表会の流れ 2

プレゼンテーション

「まちづくりははじめの一步」コース 2

「まちづくり一歩前へ」コース 3

中間発表会を終えて 6

アンケート結果 6

2003～2006年度 まちづくりファンド助成先団体・活動状況 7

まちづくりファンド・フォローアップ事業 「YORIAI(よりあい)」 8

2006年度 公益信託高知市まちづくりファンド

第2次公開審査会

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

第2次公開審査会の流れ 10

プレゼンテーション

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース 10

一次判断における運営委員の主なコメント 10

第2次公開審査会審査結果表 10

一次判断を終えての質疑 11

最終判断における運営委員のコメント 11

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定 12

中間発表会

中間発表会の流れ

2007年1月27日(土)、公益信託「高知市まちづくりファンド 中間発表会」が開催されました。参加者(応募団体・一般・関係者)は約70名。2006年7月30日(日)開催の公開審査会において助成決定を受けた10団体が、事業の進ちょく状況を発表しました。意見交流では和やかな雰囲気の中、さまざまな意見が飛び交いました。

① プレゼンテーション



各事業の進ちょく状況とともに、工夫している点、困っている点などを3分間で発表。参加者に、各事業についての質問・良い点・提案・その他の意見など、付せんに書いてもらう。

② 付せん貼りタイム



記入済みの付せんに団体ごとに貼ってもらう。

③ 意見交流



運営委員が貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

「まちづくりはじめの一歩」コース

プレゼンテーション

GROUP

1

船岡団地花いっぱい会

健全者と障害者がふれあう いきいきまちづくり



8月に予算の5分の4を使って、鉢・ブロック・棚等を買った。暑い中、ブロックの上に棚を乗せ、土を作って鉢に入れ、一輪車で指定の場所まで運んだ。その作業は大変だったが、水やりを誘った人が「私ここに初めて来たわ、嬉しい」と言ってくれた。また、団地内の草ぼうぼうの場所を整地して、花

畑にしてくれている人もいます。現在は、春夏秋冬の花や木を買ったり貰ったりして頑張っているが、花にあげる水を各自が家から運んでおり、苦労している。

Q 活動を通じて、団地住民の意識は変わってきたか？

A 一部の人は花を植えてくれている。「綺麗にしてくれて、ありがとう」と声をかけてもらうこともある。

Q 水やりの問題への対策は？

A 県営住宅の管理人に相談をしたが水道を使わせてもらえないので、花壇の横にポリタンクを置いて水を貯めたり、各自が各家庭から運んだりして水やりをしている。

■2008年に高知で花や食をテーマにした「であい博」という催しが開催される。花のイベントを盛り上げるためにも、ぜひ協力していてもらいたい。

■団地の人にSOSを出したり、町内会に協力を求めたりするなど、もう少し輪を広げていくような工夫をしてみても？



Q 今後の活動展開は？

A 参加者の中で障害のある方の割合は半分くらい。車椅子を利用している人や健全者にも、今以上に参加してもらえよう声かけをしていきたい。

■横浜市の事例だが、商店街の屋根に降った雨水を2、3軒分まとめてワイン樽に貯め、貯まった水をジョウロに入れたり、ホースを引いたりして水まきが楽にできるようになった。ワイン樽なので見た目も美しく、商店街の美化にも繋がったそうだ。参考にしてみてはどうだろう。

「まちづくり一歩前へ」コース

プレゼンテーション

GROUP 1

御豊瀬ひもの祭り実行委員会

御豊瀬地域の「お祭り」による活性化とまちづくり



12月10日に「御豊瀬ひもの祭り」を開催。ファンづくりを目標に一歩前へ進めたと思う。「これでいける」というものも見てきたが、その先のことも考えていかなければ、単なるお祭りに終わってしまう。高齢化している御豊瀬が活性化して、「あのまち元気がね」と言われるようになりたい。ブログという新しい情報媒体で皆さんがひもの祭りを宣伝してくれているので、今後はインターネットも活用していきたい。次回は更なる収穫を目指し、実行委員会や地域の人たちと共に考えていければと思う。

■探していけば、干物と獅子舞の接点があるような気がする。何度か御豊瀬を訪れてみて、街の中でのとはまた違った空気があると感じた。

Q 住民の共感は何を得られているか？

A 実行委員会は御豊瀬出身ではない5人が中心となり活動している。遠くから声をかけるだけではなく、地域の生活に入った上で「一緒にやりましょう」と声かけする必要がある。深く関わっていかない限り、地域おこしは難しい。

Q ひもの祭りも今回で3回目だが、何か嬉しい展開は？

A 定着には至っていないが、認知はされた。祭りの様子を写真に撮り、ブログで書き込みをしてくれる人もいて嬉しく思う。今回は御豊瀬の古い写真展を行った。60年前、人口密度が一番多い村ということでGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）が調査に来たことがあるが、現在は高齢化率が高知市内で一番高い。そのギャップもふまえて、「懐



かしいまち」のイメージが定着することを願う。

Q 獅子舞について詳しく知りたい。

A 御豊瀬を「獅子舞のまち」にしたいという目標もあるが、少し難しいと感じている。金子しゅうめいさんと御豊瀬の獅子舞をうまく結びつけていくことが今後の課題。ひもの祭り以外で、獅子舞の大会などを考えていった方が良いかもしれない。

■釣りやミニ水族館など、干物になる前の生の魚との触れ合いもあればいいな。

■心意気を応援したい。頑張っ！

GROUP 2

高知かがみ夢探検センター

市民の森整備と農園体験キャンプ



旧鏡村の吉原河川公園で、畑、水田、茶畑など親子で農業体験をしながら、昆虫との関わり、食の安全、食物ができるまでにどのような苦労があるかなどを学んでいる。あまり整備されず、草ぼうぼうだったキャンプ場に芝桜を植えたり、整備をすることで公園化し、広く市民に利用される場所にしていきたい。農園体験キャンプには43名の参加があり、畑の手入れを行った。5月に田植え、9月には稲刈り、12月に芝桜を植えた。今後も活動を続け、花や木で美しく彩られた公園を目指したい。

■いきなり担い手となると大変なので、「イベントへの参加→手伝い→担い手」というように、段階をふんでもらうことが必要だと思う。

Q 地元住民との関わりは？

A 活動を始めた頃は協力してくれたり、行事に参加してくれた。最近少し関わりは少なくなっているが、道で会った時などは、ねぎらいやお礼の言葉をかけてくれる。地元との関係性は、今後の活動を左右するポイントであり、大きな課題だと思う。

Q 広報は？

A 過去に参加してくれた人に案内の手紙を出したり、高知新聞の伝言板「仲間にどうぞ」へ掲載したり、イベントの都度、地域報道部の方に記事を書いてもらっている。

Q イベント参加者に変化はあるか？

A 「新春雪光山健康ウォーク」には約26名の応募があり、これまでは違ったグループが参加してくれた。「ホテルまつり」の時は参加希望者からの問い合わせで電話が鳴り続ける程の反響があり、「週末ふれあい農園体験キャンプ」には幅広い年齢層

■今後、交流が盛んになって、旧鏡村が賑やかな地域になると良い。



の方が参加してくれるようになった。

Q 農園体験を通しての感想は？

A 米作りは、農家に肥料のやり方を聞いて行ったが、多すぎたようで稲が倒れてしまった。結果、モミの状態で31kg収穫した。天日乾燥した後、精米をして20kgになった米を、芝桜の作業をした日に少し食べ、自分たちの手をかけて育てた分、おいしさが違うことを実感した。

■定期的、行動的な活動。さらに、目標を見据えながら新しい挑戦をしようとしている。高知一の芝桜が見られるよう、地道に活動を頑張っほしい。

GROUP 3

特定非営利活動法人 地域サポートの会 さわやか高知

移動制約者に安心・安全のサービスを提供するために



10月1日に道路運送法の改正があり、研修をしても国からは認められないことが分かった。認定講習のできる団体が全国に1桁、四国には1件もなく挫折していたが、9月に中央自動車学校の協力を得て実技研修を行った。また、運転ボランティア協会の運転研修を11月に行い、講習後、約13名が運転ボランティアに申請してくれた。2月下旬に生まれる認定講習可能な団体に講師依頼をし、400分の研修をこなして、県下にいる多くのボランティアと一緒に講習が受けられるよう頑張りたい。

■良いことをしようとしているのに、法の壁に阻まれて本当に残念だ。

Q どんな団体に講習を呼びかけているのか？

A 「高知県肢体障害者協会」、「さわやか大豊」に呼びかけて、何年か来も運転の実技研修を続けている。今後は団塊世代で大量に退職される方にこの講習へ参加してもらおう。運転ボランティアを受け入れられる団体として取り組んでいきたい。

Q マスコミに取り上げられているか？

A 高知新聞、朝日新聞、NHK高知放送局、テレビ朝日の「サンデープロジェクト」などに取材してもらい、皆さんに関心を持っていただけるよう努めている。道路運送法の改正という国の方針に対して、「地域福祉にこれが必要だ」という声をあげていく力は

■法制度の壁もあるので、行政に推進しようとする気持ちをもってほしい。タクシー業者の理解、担い手づくりなど色々な課題があり大変だが、共に頑張ろう。



まだない。道路運送法はタクシー業者が利益に走って、安全と安心の運転が損なわれることがないように規制するはずの法であったにも関わらず、市民の活動にまで規制が及んできている。

■法制度の壁もあるので、行政に推進しようとする気持ちをもってほしい。タクシー業者の理解、担い手づくりなど色々な課題があり大変だが、共に頑張ろう。

GROUP

4

大津地区地域リハビリテーション応援団

地域リハビリテーション・サポーター養成講座



8月から大津地区住民20名、中学生7名で講座をスタート。認知症や高齢者の特徴などの勉強、施設見学、介護の練習、救命救命講座を行った。昨年の修了生に声をかけ、受講生同士の連絡網作り、茶話会、会場設営や片付けと一緒にいるなどの交流も図った。11月の閉講式では、地区住民20名、中学生6名が資格を取得。12月には、これまでの卒業生が集まり、勉強会を開いた。障害があっても、年をとっても大津地区が住みやすいまちであるように、自分たちのできる場所から取り組んでいきたい。

Q 修了生をどのように次の活動へと繋げていくのか？

A お弁当を作って独居老人に配る、子どもたちと挨拶運動をするなど、修了生の今後の活動については詰めていきたい。

Q 活動拠点は？

A ふれあいセンターを利用したり、たんぼぼ宅老所で体操や話し合いなどを頻繁に行ったりしている。活動には、講習を修了した中学生も参加している。

Q 中学生と活動することでの発見は？

A 中学生がいるということは非常に魅力あることだがその反面、難しさも感じている。1つ1つ段階を

■受講生といろいろな話をしながら、これから何をしようかと考えていくことはすごく大事。

■子どもの教育にも通じる良い活動だと思ふ。

■中学生にとっては企画段階から話し合いに参加することで、自分のものになっていく。期待してい



追って共に活動していきたい。また、活動をとおりて医師、理学療法士、看護師など、中学生にとっては職業の選択肢が広がると思う。

るので、頑張っています！

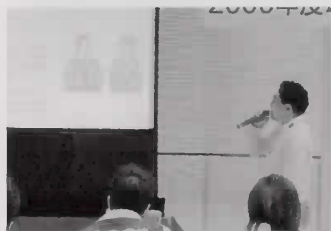
■地域の子どもたちが参加し、交流の場を広げている。前年度の修了生がステップアップして、担い手に加わるというのも素晴らしい。

GROUP

5

高知発達障害等親の会「KOSEI」

発達障害等の正しい理解と適切な支援を広げる活動



7月は発達障害の基礎知識についての講演、8月は認知障害の基礎知識についての講演を開催した。11月は啓発活動として、鏡川緑地公園でのフリーマーケットに参加。発達障害等親の会のパンフレットを作成した。12月には特別支援教育研究会との共催で、鶴田小学校にて学習会を開催。発達障害者支援センターの見学もした。高知放送で「KOSEI」代表者の家族の映像が放映された。1月はニキ・リンコさんの講演会に参加。今後は2月より随時、各学校へのパンフレットの配布、職員や保護者との懇談を行い、3月の親子キャンプでは専門家を呼び、発達障害のある子どもへの対応を検討したい。

Q 講演やメディアを通じての広報活動での成果は？

A ホームページの交流掲示板で意見をもらったり、電話をもらったり。「なかなか仕事に就けない」など、子どもだけでなく大人の悩みも寄せられている。会員だけでなく、かなりすそ野が広がってきていると感じる。

Q 会員は増えているか？

A 徐々に増え、現在は30名。これは親の会員数の合計なので、会員1人に対して子どもが3~4人くらいと考えると計算すると、全体数はかなりの数になると思う。現在、賛助会員も受け付けているが、なかなか広がらない。できれば企業などから、バックアップしてもらいたい。

Q 教員への研修会で、「KOSEI」のメンバーが講師をしてみたいか？

A 保護者からの話は先生方も聞いてくれるので

■テレビで観たが、子どものいじめで困った母親が学校や教育委員会に相談しても駄目だったので、PTAで直に保護者を説得したら話を聞いてもらえた。それがきっかけで、子どもたちが動いてクラス会を



はないかと思うので、PTAを中心に各学校を回って広げていきたいと考えている。そのような出番があれば、どんどん出かけていきたい。

Q 広報はどうしているのか？

A 会う人、会う人にパンフレットを配っているの、だいぶ認知されてきたかなと思う。行政のバックアップも得られそうな雰囲気。次回の親子キャンプも、いろいろな課から応援してもらいたい。

開き、いじめ問題が解決されたという内容だった。やはり直接親に訴えるのは非常に有効だと感じた。

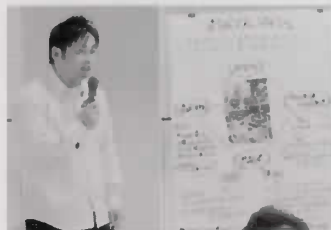
■親を中心とした熱心な活動に感心した。理解されにくい活動かもしれないが、頑張してほしい。

GROUP

6

おびさんマルシェ実行委員会

おびさんロードから魅力ある新しい文化を発信して、中心商店街活性化を目指します



この半年間では9、11月に「おびさんマルシェ」を開催。11月は「こうち山の日イベント」と同時開催して盛り上がった。他には「参加してほしい」と依頼を受け、ミニおびさんマルシェのような形で「かけはし祭り」

や「アートミーティング」、アートフリマ「りぶらあと」に参加した。助成金でパラソルや椅子、テーブルを購入したことで出店者の負担が減り、作品や商品づくりに専念できるようになって質が向上した。運営に参加したい人や、機材の借出しがあることを知り、出店したいという人が増え、若者の作品発表の機会も増えたのではないかと感じている。

Q 出張おびさんマルシェを依頼する時の条件は？

A おびさんマルシェへ実際に足を運び、雰囲気を感じてくれた県立美術館からは、「中庭でやりたい」という依頼があった。依頼者のコンセプトや思いなどを伺い、行ける範囲であれば出張したい。

Q 開催日が定期的になる予定は？

A 年末年始は休み、それ以外の時期は2カ月に1回のペースで、3、5、7、9、11月に開催したいと考えている。「毎月第〇何曜日」と定期的に開催すれば告知もしやすくなるが、いろいろなイベントと一緒に開催したいと思っているので、流動的になってしまう。

Q 商店街の活性化につながっているか？

A 「中心商店街の活性化で頑張っていますね」と言われるが、衰退化に歯止めをかけている状態なので、活性化しているとは思っていない。

■パラソルを無料貸出することで出店者に貢献し、活動がより活性化されている。

■他の商店街のイベント等とコラボレーションして、どんどん活動が広がっている。



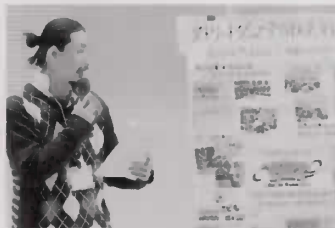
Q 何時までやっているか？

A 現在は21時まで。18時を過ぎると人も少なくなり、街灯はあるが、出店者にしてみれば手元が暗くて商品が見づらくなる。照明があれば遠くからの見た目も良く、行ってみようと思ってもらえるのではないだろうか。できれば、助成金の一部を照明費に充てたい。

■おびさんマルシェには何度か出かけたことがあるが、おしゃれな感じで、テーマを「食とアート」に限定したことが成功した要因だと感じた。

GROUP 7 ストリートダンス全国大会実行委員会

ストリートダンスを通じた、若者によるまちづくりへの参画



若者に社会性を身につけてもらおうと、事務局の運営と事務を任せている。イベント開催の依頼があれば、完全に任せていきたい。ダンス人口の増加、ダンスへの理解や認知度を上げるために、

積極的に町内のイベントへ参加。高齢者施設、障害者施設へも何度か慰問した。3月には海外からゲストダンサーを招き、ワークショップなどの交流をする予定。予選大会・本選の実施に向け、県内のJR四国各駅へポスター、チラシを貼っている。全国への情報発信として、NTT西日本やNTTドコモ四国のライブ中継等を行ってきたい。

Q 教育関係者の理解は得やすくなったか?

A 前よりは楽にはなってきた。高知県内では、高知工業高等専門学校にしかダンス部がないので、まずは、ある高校のPTA会長をしている知り合いをとおして、ダンス部を設ける話を進めていこうと考えている。なかなか部活動としては認められない現実があるので、何とか認められるように第一歩を踏み出していきたい。

Q 若者の意欲を引き出すための留意点は?

A なるべく話し合いの場に来てもらい、楽しいと思ってもらえるように努めている。思いどおりに動いてくれないことが多く、失敗することもあるが、任せる

■ただ単に自分たちがダンスを踊っているというだけでなく、施設に向かうなど、社会貢献の場が広がっているのが良い。

■ネットワークメディアをうまく活用して、一般の人にストリートダンスが認知されてきており、すばらしい。毎年成長していることが実感できる。



ことで責任感が芽生えてきている。

Q 施設へのイベント出演依頼は簡単にできるのか?

A 基本的にはできる。メンバーの都合のつく日があれば、出向いている。

■ダンスが部活動として認められていけば、またグッと活動の幅が広がっていくように思う。

■若い人が主になって動いていることが、社会的にも今、一番大事な部分なのではないだろうか。頼もしく思う。

GROUP 8 高知演劇ネットワーク・演会

演劇をあらゆる市民のそばに～アートNPO活動



2006年度助成

この半年間に韓国BeSeTo演劇祭や、高松のサポート演劇祭、フリーダムで公演した。3月には、岡山の中四国演劇祭で公演する。県内では、佐川町立の公共ホール「桜座」と県

立の美術館ホールの協同作業に私たちNPOが入り、オリジナルの作品を作ろうというプロジェクトを進めている。「演劇祭KOCHI 2007」では、各劇団作品のクオリティーの追求、バリアフリー活動など、もろもろのアウトリーチ（出前）活動を行っていると思っている。4年後ぐらいには国際演劇祭を目指すと共に、県外の公演や観劇ラリー、高校生による上演なども行っていきたい。

Q 演劇ネットワークとまちづくりとの関連性は見えてきたか?

A 例えば、県立美術館と佐川町立桜座など、県と町という2つの官が一緒になって何かをつくることは、行政だけでは困難。そこで我々が間に入ってリンクしていくような活動となるよう取り組んでいる。そういう役割を担うことも、まちづくりだと思う。

Q 今後の資金的な課題、見通しは?

A 海外や県外での公演は招へいを受けて出かけているので、資金面では助かっている。最近では財団からの助成をもらえるようになった。ただ、自分たちだけで狙うのは難しいので、県立美術館と一緒に事業を起こして助成金をもらうという形をとっている。また、マネージメントに関する講習会に出かけ、勉強もしている。もっと全国

■最近、演劇という言葉をいろいろなところで耳にするようになった。高知の文化発信として、まちづくりに定着しようとしている点の評価できる点でもあり、1つの歴史をつくっていくのではないかなと思う。

■ネットワークの良さを生かして活動している。

■「芸術はまちづくり」「文化のないまちなんか意



的な助成金を受けることができるように活動していきたい。

Q 活動の幅が広がってきて、事務局が大変では?

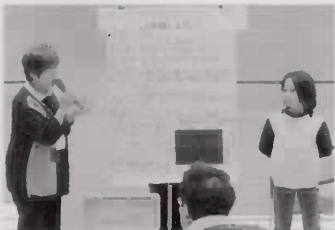
A 演会には劇団の集まりなので、それぞれの劇団から1人ずつ事務局員を出して事務局をつくっている。実際には事務局長が一番大変なのだが、事務局が中心になって、皆に号令をかけている状態。

味がない」と、行く先々で活動しているので、すごいと思う。

■やはり行政のハード事業だけで「もの」は動かない。高知演劇ネットワーク・演会の活動は、まちづくりとの関係のなかで、ソフトの役割を担っているのではないだろうか。

GROUP 9 あったか高知花いっぱい会

花と光ともてなす心で 運動公園周辺をより快適に



草刈り、木の剪定、コストを抑えた電気配線の手配など、鏡川の河川敷にイルミネーションをつけるため、走り回った。現在は33本ある木のうち、13本にイルミネーションを点灯し、周辺

には鏡川保育園や第六小学校に協力してもらって花を植えた。12月の点灯式には多くの人々が参加してくれたし、近隣の人たちも毎日見ている様子なので嬉しい。残りの木にも、イルミネーションを灯し、周辺を明るくできるように頑張りたい。賛助金の呼びかけも引き続き行っていく。17時半から20時過ぎ頃まで点灯しているので、ぜひ見に来てほしい。

Q 電気代はどのようにしているか?

A 昨年12月23日に点灯式を行い、1月にきた電気代請求額は1,000円不足だった。協力してくれている企業からイルミネーションの管理費としていくらかもらっている。足りない分は、寄付してもらおうようお願いしている。

Q イルミネーションで工夫している点は?

A 季節ごとにイルミネーションの模様を替えていく。今の時期は、チュールリップや金魚などの形で彩っている。

Q 今後助成がなくなった場合、イルミネーションはどうなるのか?

A 点灯は続ける。あの道沿いを暗くすることはしない。

■点滅の仕方が木ごとに違って、ちょっと分かりにくいと感じた。

■さらに美しさにこだわってもらいたい。

■点灯式の様子が新聞に載るかなと楽しみにして



Q 完成するのはいつ頃か?

A なるべく早く完成させたい。寄付や賛助金がもらえるよう、引き続き声かけをしていきたい。

Q 地域住民や外部の人からの意見は?

A 体育館に来るお客さんが「美しいですね」とよく言ってくれる。

いた。時期的にも丁度クリスマスで、いい話だと思っていたが、残念ながら今のところ載っていない。花見の時期あたりを楽しみにしている。

二〇〇六年度 中間発表会を終えて

運営委員長 卯月盛夫 (早稲田大学教授)

高知らしい、大変楽しく、充実した発表会でした。近頃、まちづくりをする人たちの輪が広がらない。福祉に興味がある人は福祉を、アートに興味のある人はアートを、花に興味のある人は花をやっているけれど、限界がある。しかし、もっと輪を広げるためには、それぞれがコラボレーションをするしかないんです。しかも、「アート」とか「食」とか、人間の五感に訴えるものが加わると広がりやすい。でも、高知では既にそういうことが起きつつあるということを実感しました。

例えば、「高知かがみ夢探検センター」中心は花などの自然だと思えますが、新米を作った食べたということ、「花」と「食」の結びつきがありました。また、「おびさんマルシェ実行委員会」は、「食」と「アート」を結びつけています。二つの領域にまたがっていると、輪が広がっていきますよね。

「大津地区地域リハビリテーション応援団」のこれからの展開にも給食や配食がありました。視点を変えてみると、「食」によって人と人との触れ合いがあり、他のまちづくりのテーマに拡大していくんですね。「大津地区」が「食」と言ったら、「御覺瀬ひもの祭り実行委員会」の干物を出してみるとか、「おびさんマルシェ」のおいしいイタリア料理を出張でやってみるとか。高知の中で、あそこへ行かないと食べられない、また、見られないもの場所を移動させることで、また新しい高知の特性が出てくるかもしれません。



高知の、この自由な雰囲気の中で、五感に訴えるような感覚的なまちづくりを進めていく。そういう意味では、「ストリートダンス全国大会実行委員会」や、「高知演劇ネットワーク・演会」なども、「若者だけがやっているんじゃないよ」「支えている人たちがたくさんいるんだよ」という発信をしている。「さすが高知のまちづくりだな」と思います。

今年度の助成事業は、目に見えるハードなものが多いような気がします。ハードコース新設の時には、ソフトの活動を二年やって、その次にハードの活動を二年やる、という五年間を想定していました。つまりソフトの活動を行っていくうちに、「拠点が必要だ」「もう少し輪を広げたい。そのためにはハードな施設が必要なんだ」と思い始める。そういうハードな施設をつくる前段階として、ソフトの活動があります。これからの半年間の活動と、さらに次の一年間の活動を考える時に、来年度の「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」「コースへの応募も視野に入れていただければ、高知の素晴らしいまちづくりをもっととっと全国発信できるのではないのでしょうか。

2006年度 公益信託 高知市まちづくりファンド

中間発表会アンケート結果

有効回答数：21名
開催日：2007年1月27日(土)

① 中間発表会を何で知りましたか？ (複数回答あり)

- 運営委員会からの案内 (19)
- センターだより「えぬびいOh!」 (1)
- その他 (1) → 団体の人から

③ 参加されたあなたの立場を教えてください。

- 発表者 (8)
- 発表団体の一員として (10)
- まちづくりに関心ある一市民として (1)
- その他 (1) → 前年度発表者
- 無回答 (1)

② 期待度を100%とすると、今日の満足度は何パーセントでしたか？

- 120% (1)
- 100% (1)
- 95% (2)

④ あなたの年代を教えてください。

- 20歳代 (3)
- 30歳代 (6)
- 40歳代 (5)
- 50歳代 (3)
- 60歳代 (3)
- 70歳代以上 (1)

● 活動内容を理解してもらった

- 90% (8)

⑤ 自由記述

<感想>

- 途中経過が分かって、他団体から見えそうな内容もピックアップさせてもらっている
- ファンドを使う人が少し減った？
- それぞれの団体の活動が分かった

<改善点>

- もう少し皆で話しあえる時間が欲しかった
- 発表団体以外の人がある工夫があれば

- 事前の準備資金として有難い。呼びたい講師が呼べる。計画が立てやすい。手続き他、簡素化できればうれしい
- 初めてにしては苦勞する面が多かったが、みんなに喜んでもらったので満足している
- まだやり足りないことがあるが、ある面できたと思う
- 全部聞いてないので

- 85% (1)

- 所用で発表が聞けなかった。残念

- 80% (6)

- 無回答 (2)

2003~2006年度

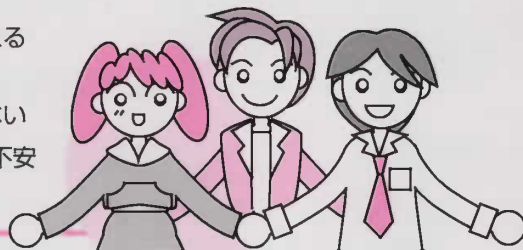
まちづくりファンド助成先団体・活動状況

公益信託高知市まちづくりファンド誕生から、これまでに助成を受けた44団体を対象に、活動状況についてお聞きしました。その中で、現在の悩みや課題、活動を続けていく上でのアドバイスを一部ご紹介したいと思います。

活動を続けていくうえでの悩みや課題

人材

- 催し当日のボランティアはある程度集まるが、運営に関わってくれる人材はなかなか集まらない
- 参加者は子育て中の人やお年寄りが多いため、後継者がみつからない
- 年代が下がる程、メンバーが少ないので、活動を継続していけるのか不安
- 人員不足。集客力がない



資金

- 県外から講師を招くには費用がかかる。会費だけでは運営が難しい
- 活動を続けていく上での新たな活動資金を確保したい
- 作った製品の販売が思うようにいかず、活動費が十分ではない



広報 ほか

- 地域との連携、理解がなかなか得られない
- 情報をうまく活かしていく方法や、経理など事務的なこと
- 全員そろって集まれることが少ないので、団体としてのまとまりに欠けている
- 活動をますます充実させていくために、仕事と両立できる環境づくり



活動を続けていくうえでのアドバイス

- 熱意をもった人が核となって続けること。みんなで汗を流すこと。継続は力なり
- 意見をいかに取り上げて、協力してもらえる態勢にもっていくかが大事。協力があってこそ継続できる。やる人の満足だけで終わってしまうとは、まちづくりにならない
- 団体活動は楽しくなければ、また、そこに何かしらの魅力がなければ続かない
- いろいろなイベントを見に行き「いいな～」と思ったものは取り入れる
- 失敗をしたら後悔するのではなく、次はどうすればいいかと前向きに捉え、失敗を活かしていく
- 1人に全部まかせるのではなく、みんなで分担すれば、他のことにも手を出せる
- 思いと現実はずいぶん違う。毎日が活動。少しずつの持続が組織活動の成果となる。分かっていることでも実際やってみて更に分かるということが多い。目前の課題を全力で達成していくことが大切だ。仲間がいないと心細いが、リーダーは詳細に記録を残すこと。それがマニュアルとなり、次の活動に繋がる
- いつでも高い目標の活動に参加できるよう声をかけ合い、門戸を閉ざすことのないよう運営する
- 経費をかけない工夫。イベントの広報活動は、新聞、テレビなどで取り上げてもらっている。チラシは作らないが、ポスターは作る。保育園や小学校に呼びかけ、日程など、最低限の内容を盛り込んだポスターを20~30枚、自由に描いてもらっている
- 何かをしたいと思うと、最初につづかるのが資金繰り。活動内容に賛同してもらい、助成をしてもらうことで、実現できる活動が多々ある。自分たちの中で考えるだけでなく、連携して実現できること、賛同して協力していただけることがあるかもしれない
- イベントを通じて、子どもたちと高齢者、保護者と高齢者が顔見知りになることで、子どもたちが登下校中に挨拶を交わすようになる。そういった交流が自然と防犯効果につながっている

まちづくりファンド・フォローアップ事業 「YORIAL (よりあい)」

前ページ掲載の悩みや課題を受けて、2007年1月27日(土)に開催した中間発表会の後に時間を設け、まちづくりファンド・フォローアップ事業「YORIAL (よりあい)」を開催しました。運営委員、過去助成先団体4団体(4名)、今年度助成先団体7団体(13名)が4グループに分かれ、「人材、資金、広報」の中から1つのテーマを選び、アイデアを出し合いました。

人材 44団体からお聞きした中で一番多かった悩みは、「メンバーが少ない」、「後継者がいない」など、人材面の課題でした。

運営メンバーが固定化しないためには？



SHIROHITA

司会者 城下 秀二 (御豊瀬ひもの祭り実行委員会)

この会場にいる人は、基本的に頑張っていて、現時点での人材は何とかなっていると思うが、次のステップをどう踏み出すかということになると難しい。専門性のある人を巻き込もうとすると、さらに難しく、ポイント的に動く人、脇を固める人、個々の適正を見極めて、声かけしながら役割分担をしていくことが必要だろう。活動の継続を願えば、次の世代を育てていくことは大切な課題。今後、町内会をはじめ、人材を求めていくには、高齢化や防災に関するいろいろな問題が出てくると思うので、高齢化やリハビリテーション、防災といったキーワードで声かけをしていく、というのも1つの方法だと思う。



グループ1



NISHIMURA

司会者 西村 和洋 (高知演劇ネットワーク・演会)

なぜ運営メンバーが固定化するのか？メンバーの中でも考え方や意識の差があるので、その兼ね合いも必要になる。少人数でも運営はできるが、結局その人だけが頑張ってやっけてしまい、その結果、仕事との両立で問題も出てくる。「活動のすそ野を広げ、仲間を増やしていくことで、運営メンバーも増えるのでは？」という意見と、「活動内容をよく知らないまま輪の中に入っていきは難しいのでは？」という意見があった。OBの存在は重要で、OBに協力してもらいながら、ファンを増やしていく。また、外からの評価がないと運営が固定化してしまうので、いつでも参加しやすい場所づくりや、経理など裏方好きなメンバーを育てることも大事だと思う。運営メンバーを固定化しないために、問題意識を持った仲間を増やす。そのためには、他団体の活動を知ったり、多くの人たちと意見交換ができたりする、このファンドのような場に参加することが大事だと思う。



グループ2

資金 二番目の悩みとして多かったのは、助成金以外の資金確保をどうするか、という悩みでした。

円滑な運営を継続していく資金を確保するためには？



ONISHI

司会者 大西 みちる (おびさんマルシェ実行委員会)

まず地域の人たちの理解、協力を求めるのが大事。町内会で賛同者を募って金銭的に支援してもらったり、無償ボランティアを呼びかけたりしても良いのではないだろうか。そのためには、イベントを魅力あるものにして、地域にもたらす良い効果を感じてもらい、応援してもらえるようにする。そして、イベントのファンを増やす。例えば、「高知こどもの図書館」は北海道から九州まで会員がいる。御豊瀬ひもの祭りが好きで毎年参加してくれる人もいる。そういったファンがまちにお金を落としていってくれる。やはりイベントの質の向上を目指すことが大切である。すばらしい人材を集めて、すばらしい広報をすることが、資金の確保にもつながるのではないだろうか。



グループ3

広報

人材面や資金面での悩みを解決するためにも、市民活動に興味のなかった人たちに「楽しそう」、「一緒に活動してみたい」と思ってもらえるような広報の工夫とは？

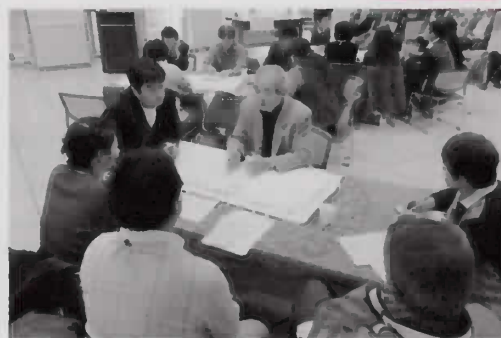
市民活動に携わったことのない人に興味を持ってもらうためには？



TAKAHASHI

講演者 高橋 昭一（高知発達障害等親の会「KOSEI」）

パンフレットを持ち歩き、出会った人に渡すのも1つの方法。組織の目指していることや活動内容を分かりやすく伝えることが重要なので、読んでもらえる広報紙作りを目指したい。「平田団地公園愛護会」は、カラー写真を使って情報や状況が分かりやすいチラシ作りを心がけ、印刷も印刷会社からの寄付で格安に仕上げたということ。他の団体の広報紙に載せてもらうのも良い。不審者対策の交番広報に載せてもらう方法もあるらしい。読者の広場への投稿や、自治会の広報などを利用し、行政に働きかけ、協力をおおくことも重要。また、参加者へのアプローチも必要だと思う。情報発信する人が常にアンテナを張って、周りが見えていれば良い判断ができ、プラスに動けるのではないだろうか。



グループ4

まとめ

卯月 盛夫（運営委員長）

お金はどこかにある。人もどこかにいる。だが、欲しいと思ってる所に、そのお金や人が来ない。今日お集まりの皆さんは自分たちの活動、ミッションをもう精一杯やっていることと思う。活動を広げるために、人も来て欲しいし、お金も欲しいと思うのは当然だが、ひとつひとつの団体でできることには限界がある。お金のあるところからどうやってお金を持ってくるか、人が居るところにどうやって手伝いを頼むか。そのマッチングのために、市民活動サポートセンターのような組織があるという認識をもつことは必要だと思う。



UZUKI

畠中 洋行（高知市市民活動サポートセンター長）

皆さんがお話している様子を見ていて、交流が生まれているなと感じた。今日のテーマでもある「人材」「資金」「広報」等の課題に対して、市民活動サポートセンターという中間支援組織だからできることにこれから取り組んでいきたいと思う。そして、このような場をまた設けたいと思っているので、お互いに頑張りましょう。



HATAKENAKA

- 有意義な話し合いができて楽しかった
- いろいろな団体の意見が参考になった
- 深めるだけの時間はなかったが、人それぞれ考え方が違うことも認識できた
- おもしろかった。他の団体の人との距離が縮まったように思う
- 大変良い取り組みだった。次回にも期待している
- 意見の出し合いだけで終わらない会にしてほしい
- すごく興味深い内容で勉強になった
- もう少し時間が欲しかった
- 同じような悩みをもちながらも、しっかりサポートし合って活動しているということを知った
- 今回初めて参加した。個々の人たちが、それぞれの活動に力を入れて取り組んでいる様子が伝わってきた。もっといろいろな人に知ってもらえたらいいな！と思う
- 出席して良かった
- これまでファンドの助成を受けた人たちに、もっと来てもらいたい
- 事前にテーマが判っていれば、例えば「広報」というテーマの場合、サンプルとなる広報紙を持参して皆さんに見てもらえれば、「百聞は一見にしかず」で説得力もあり、より充実した会になっていたと思ひ、残念だった

参加者の声



「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

第2次公開審査会の流れ

2007年1月28日(日)、第1次公開審査を通過した1団体が発表。参加者(応募団体・一般・関係者)は約30名でしたが、注目度が高かった割には一般の参加者が少なく残念でした。公開審査会は次の過程で行われ、下記結果表のとおり決定しました。

1 プレゼンテーション



応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、10分以内でプレゼンテーションを行った後、20分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が、<創意工夫・実現性・資金等の的確性・公共性・地域まちづくりへの発展性>の項目ごとにA、B、Cの3段階で評価する
※ A、B、Cについては下表参照

3 質疑



一次判断で示されたBについて質疑応答

4 最終判断



各運営委員が助成対象として推薦するかどうかを判断する

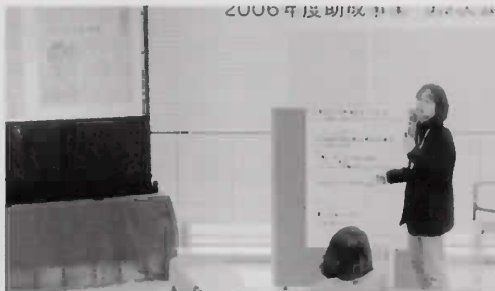
プレゼンテーション

活動テーマ

あらゆる景力に悩む方が安心してすごせる場所「あいあいめっせ」シェルターづくり

GROUP.1

あいあいめっせ



見積もりの結果、第1次公開審査で申請した物件は老朽化が進んでいて予想以上に費用がかかるため、相談件数の増加や緊急性を考慮し、整備場所と工期を変更。整備箇所は1階玄関右側の納戸を区切って、メンバーが交代で管理し、2階に2家族、1階に1家族を想定している。また、風呂、洗面所、トイレ、台所の床を張り替え、トイレを個室にする。対面式キッチンが窓側に移して、皆で食事ができるようダイニングを広くし、2階は洋室の出入口を2カ所にする。駐車場には寄付された家電を保管し、大きい車が入るよう、シャッターを外して戸を付けたい。

質疑応答

Q: 第1次審査から第2次審査までに、整備場所や内容、見積業者の変更があり、見積書の日付が書類提出期限を過ぎていたか?

A: 書類提出期限の締め切り間際に新しい物件を購入したため。

Q: ベランダの改修が業者によって含まれていない。また、クロス張り替え面積の違いは?

A: 当初、ベランダの改修を計画していたが、途中で現状のままでも良いと判断。クロスは何平米で計算しているのかわからない。業者によって細目や内訳の区分に違いがある。また、台所の使い勝手が良くなるよう見積もった業者もある。

Q: 整備前のガラス戸は4枚だが、木製建具、ガラス戸6枚、フラッシュ戸8枚というのはどの部分か?また、玄関ドア取り換えの必要性は?

A: どの部分かわからない。玄関ドアは狭くて物の出し入れがしにくいので。

Q: 洋便器は移設し、温便座を載せれば良いのでは?

A: 価格が1万円も違わなかったため、便器を購入したい。

一次判断における運営委員の主なコメント

図面と見積もりの設計内容、内訳書の項目が業者ごとに違い、疑問を感じる。

シェルターとして必要最小限の整備以外、過度な改修について認めることはできない。

助成決定後、すぐ工事に取られる段階であるはずが、見積もりに対する問いかけに不明なものがいくつかあった。

2006年度 公益信託高知市まちづくりファンド助成事業 第2次公開審査会審査結果表

第1次審査通過団体 あいあいめっせ

● 一次判断

ランク	創意工夫	実現性	資金等の的確性	公共性	地域まちづくりへの発展性
A 評価できる	■■■■■■■■			■■■■	■
B もう少し話を聞きたい	■	■■■■■■■■	■■■■	■■■■	■■■■■■
C 社会的に意義ある活動だが、助成審査には馴染みにくい		■	■■■■■■	■	■■

● 最終判断

助成すべき	助成しない
	■■■■■■■■

質疑応答

一次判断を終えての質疑

創意工夫

- Q コスト削減の創意工夫は？
- A 業者に在庫のクロスを使ってコストを抑えてもらうよう依頼した。

実現性

- Q 使用承諾書に「シェルターもしくはグループホームとして使用しない時には、ただちに返却すること」とあるが？
- A 住む所のない被害者が多いので、閉鎖することはまずない。
- Q 他のシェルターも含め、人の配置は？
- A 一家で生活することが可能な場合は家を賃し、メンバーは定期的に様子を見に行く。接近禁止命令が出ていたり、離婚調停になっていたりする場合は相談にのる。一緒に住む必要がある場合は、常時、メンバーが1人付く。

資金等の的確性

- Q 床の張り替え、トイレの個室化、クロスの貼り替え以外の整備の必要性は？
- A 風呂は湯が漏れて使えない。IHクッキングヒーターは被害者の安全性の確保と維持費を抑えるため。ダイニングは皆で食事をするには狭いので流しを移動させたい。納戸は区切れば、より多くの被害者を保護できる。1階は管理人が泊まる部屋として囲いたい。

公共性

- Q 提出書類に「地域の温かい支援を受けて」とあるが、地域の人への説明や承諾は？
- A メンバーは15年程前からその家に住んでいるので、近隣の人は活動のことを理解している。工事に先立ち、具体的に詳しい説明をしていく。

地域まちづくりへの発展性

- Q ファンド助成金の活用をどうアピールするか？DV問題の情報発信により、支援の輪が広がるよう明るいまちづくりにつなげることができるか？
- A シェルター内部の写真は公開できる。地元紙連載中のコラムで報告することも可能。シェルターということでオープンにはできないが、DV被害者の保護に理解あるまちづくり=住みよいまちづくりだと思う。

最終判断における運営委員のコメント



運営委員
堀 洋子 (社)高知県建築士会)

何とかしてあげたい思いもあるが、書類不備ということで残念な結果になってしまった。しかし、社会的な判断をされる時はそこを問われる。練り直して、次回も応募してほしい。



運営委員
増田 和剛 (高知中・高等学校教諭)

このような場に多くの資料を準備して応募されたことに強いメッセージ性を感じる。金銭面だけでなく、もう少し違った形で活動をサポートしてくれる部署が高知市の中に必要なのではないだろうか。これからも頑張って活動を続けてもらいたい。



運営委員
田岡 真由美 (株)相模)

見積りの問題や課題がはっきりとしているので、その部分をきちんと解決できれば十分可能だと思う。今後も頑張してほしい。



運営委員
玉里 恵美子 (高知女子大学助教授)

残念な結果ではあるが、第1号で応募された勇氣に敬意を表したい。先例がない中、これだけの書式を揃えるのは大変だったと思う。運営委員側も勉強をさせてもらった。期日を守る、整備の必要性が詳しく説明されている等、今回のさまざまな判断が今後の基準になっていくので厳しい判断をせざるを得なかった。不備だった部分や反省点を練り直せば、可能性はあると思う。頑張って、また挑戦してもらいたい。



運営委員
半田 雅典 (高知県ボランティア・NPOセンター)

資金の的確性や手続変更など、とても残念に思う。応援したい気持ちはあるが、他の助成金に応募した場合を考えると、あえて厳しさも必要ではないかと判断した。高知市市民活動サポートセンター、高知県ボランティア・NPOセンターには、いろいろな助成金情報が集まるし、アドバイスもできるので、資金確保の工夫をしてもらえたらと思う。



副運営委員長
玖波井 加代子 (勤労者マルチライフ支援事業プロジェクトマネージャー)

1次審査を通過しているので、来年は2次審査から応募できる権利を与えたらどうかという案も出た。しかし、2次審査までの5ヵ月間に必死で準備をすれば、もっときちんとしたものが出ていたはずなので、大きな額の公共のお金を任せるには不安を感じた。期日に書式一式が揃わなかったり、変更があったこともふまえ、割り切った判断をした。



運営委員長
卯月 盛夫 (早稲田大学教授)

第1次審査を通過してから12月15日までの5ヵ月間の使い方が一番問われているのだと思う。企画や設計の調整、工事業者の見積もり等をきちんとやってもらいたかった。そういう意味では、サポートするこちら側の責任もゼロとは言えない。今回のこの経験を生かし、我々も次年度に向けて考えていかなければならない。来年も同じ物件で申請することは少し難しいが、活動の中で新たな企画や事業の提案があれば、支援したいと思う。大変残念な結果になってしまったが、ご理解をいただきたい。

公益信託 「高知市まちづくりファンド」 とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学び場になることを目的としています。多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めたが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円（活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成）

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{3}{4}$ 以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先：高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

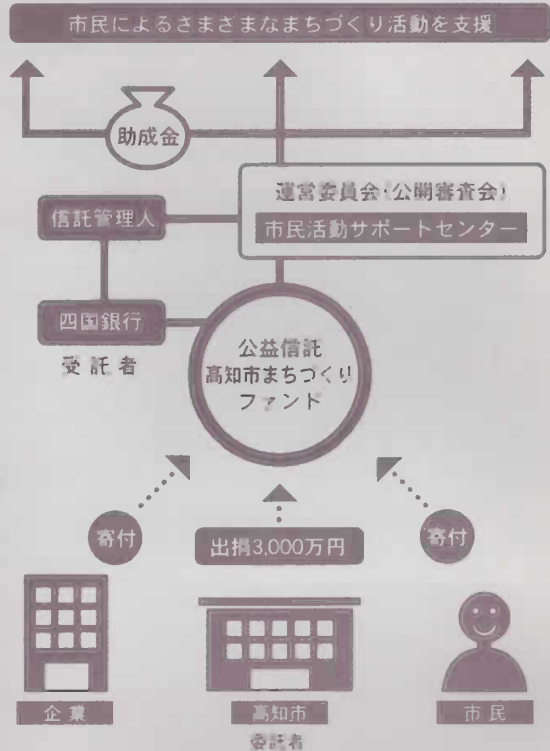
「まちづくり大きな一歩（ソフトからハードへ）」コース

高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にしていけるために行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額 上限300万円（助成率100%）

審査方法 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体に、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成し、現地調査後、第2次公開審査会において発表していただき、公開審査で1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先：株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当 TEL 088-871-2178



四国銀行コメント

株式会社四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていけるためのお手伝いができるよう努めていきます。

私たちもお手伝いします。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関すること、また、まちづくり活動や市民活動に関すること等、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも長くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に生かされるように、多くの皆様のご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 **四国銀行**
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話：088-871-2178（直通）

高知市市民活動サポートセンター

まってま〜す！



まちづくりファンドのニュースや応募、公開審査会に関するお問い合わせは、下記高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。次回の発行は、最終発表会の後になります。

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL：088-820-1540 FAX：088-820-1665

E-mail: npokochi@siminkaigi.com 【URL】http://www.siminkaigi.com

2007年のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

2006年度助成事業

最終活動報告書の提出期限 7月18日(水)
最終発表会 8月4日(土)

2007年度助成事業

応募受付期間 5月21日(月)~6月20日(水)
公開審査会 8月5日(日)

2100 古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH SOY INK この印刷物は、環境に優しい大豆インキを使用しています。